

■開催日時

令和7年10月6日（月） 午後7時00分～午後9時00分

■開催場所

四季の森生涯学習センター東館 大会議室

■出席者

委員 9名

酒井克典会長、山田俊朗副会長、吉良勉委員、小山基輝委員、雪岡のり子委員、畑弘恵委員、西尾雅子委員、堀井京子委員、荒山恵委員

オブザーバー 2名

古谷重樹地域整備課長、足立知也農村環境課係長

事務局 5名

波部正司観光交流部長、酒井誠商工観光課長、岡佳巳商工観光課課長補佐、池田美咲商工観光課係長、野口翔大商工観光課主事

■欠席者 2名

市野健太委員、松浦由美委員

■傍聴者

0名

■会議の要旨

以下のとおり

-
1. 開会
 2. 委嘱状の交付
 3. あいさつ
 4. 委員自己紹介
 5. 丹波篠山市桜ビジョン及び推進会議について
(事務局から資料1により説明)

6. 会長及び副会長の選任

(委員互選により、会長にささやま桜協会の理事長の酒井克典氏、副会長に丹波篠山市自治会長会・会長の山田俊朗氏を選任)

7. 検討事項

- (1) オンラインのサクラの里をつくるワークショップ
～桜ビジョンの理念実現に向けた取り組みの検討～

市木サクラを取り巻く課題を共有し、桜ビジョンの理念「市民みんなで作るオンラインのサクラの里」実現のため、誰が、どのような取り組みを、いつ実施していくかを2班に分かれて話し合い。

【A班】

山田俊朗副会長、吉良勉委員、西尾雅子委員、堀井京子委員

① 桜ビジョン推進の基本ストーリー

まず、桜を活用して

- 現状を知ってもらう
- 桜に興味を持ってもらう

その後

- 所有者の明確化・名木の選定・オーナー制度などで「保護」へつなぐ

② 活用の施策

・桜を使った商品展開

例：花の塩漬け、フレグランス、酒類、枝染色など

→ 観光利用・地域活性化

見守る人材の育成・学ぶ機会の提供

資金集め（商品販売→保全資金へ）につなげる

③ 桜の商品化で期待される効果

- ・飲食・小売・製造など幅広い業種が桜に関与
- ・親子・学校教育での活用（体験学習）
- ・年間を通じた桜のPR
- ・消費を通じて桜保全の資金循環が生まれる

【B班】

酒井克典会長、小山基輝委員、雪岡のり子委員、畑弘恵委員、荒山恵委員

① 取組整理と難易度分類

・桜ビジョンの取り組み例 36案を

- 「すぐできる」
- 「がんばったらできる」
- 「とても難しい」

に分類

・「すぐできる」は 短期・中期・長期に時系列整理

- ② 「とても難しい」に分類されたものとその理由
 - ・所有者調査・木札設置・名所保全・命名権販売
 - 本数が多く 時間・費用・人手が膨大
 - ・篠山川での舟運観光は 物理的に困難

- ③ 意見の抜粋
 - ・桜管理には 専門家（造園業者）との連携が必要
 - ・観光協会は イベント開催だけでなく保全・周知にも関与してほしい
 - ・桜は 誰かが管理しているから美しく咲くという認識が市民に不足
 - ・桜の手入れは誰でも可能だが、具体的な手入れの方法が十分に周知できていない
 - ・桜守の専門性を活かすため、活躍できる場や仕組みづくりが必要
 - ・保全活動を知ってもらうには SNS が有効
 - ・行政や桜協会だけの「桜パトロール」では限界
 - 人まかせではなく、市民・子どもなど、みんなの「目」で見守る仕組みが重要
 - ・桜協会の活動の全市展開が課題

【話し合いを受けた要点】

- ・桜ビジョンの理念実現に向けた取り組みには、
 - ① 桜の活用 → ② 関心喚起 → ③ 人材育成 → ④ 桜の保全 → ⑤ 資金循環という段階構成が有効
- ・商品化・観光・教育を連動させることが鍵
- ・桜守・市民・子ども・事業者の参加型体制づくりが有効
- ・行政や桜協会まかせではなく、「みんなで支える桜」への意識転換が必要

※別紙「桜ビジョン推進に係る取組方針の提案」として要点を整理。

8. 閉会